新人看護師成長記録

－ 小児棟編 －

2022 年度入職の新人看護師たちは、頼もしく成長しています
これから看護師を目指す皆さんへのメッセージです
それでは、どうぞ

私は大阪母子医療センターに就職し、小児外科病棟で働いています。看護する上で楽しさややりがいを感じるのは何より子ども達の笑顔です。毎日子ども達と関わっていく中で、子ども達の素直さや発想力に癒されています。

働く中で、何をしても上手くいかず、行き詰まった時もありましたが、そんな時も子どもたちの笑顔に何度も励まされてきました。入職時は、何をするのも恐怖心でいっぱいでした。

看護師として働くということは、学生時代とは異なり、輸液管理など自分の行う事が患者さんの生命に直結するという恐怖があったからです。それを先輩看護師に伝えた際、その気持ちは大事なことだし、今後も忘れないで欲しいと声を掛けて頂きました。

このように先輩看護師や病棟保育士などとコミュニケーションをとり、温かく、時には厳しく支えてもらい、今も働くことができています。同期とは嬉しかったことや辛いこと、分からないことなど何でも相談できる関係で、同期の存在が日々とても心強いです。（5 階西）

私は入職時、ケアや処置をする際に正しい手技で行うことに頭がいっぱいになってしまっていました。

しかし、様々な看護技術の経験が増加し少しずつ手技にも慣れてきて今では患者さんや家族に優しく声を掛けながら行うことができるようになりました。

まだ未経験なケアも多いため、これからも同期と学んだことを情報共有したり、分からないことは先輩に聞いたりしながら学習を続けていきたいです。

また、COVID19 の患者さんの看護等、他の病棟ではできないことも経験しており、1 つ 1 つの経験を大切にしていきたいです。（5 階東）

入職して数カ月は業務を覚えてこなすだけで精一杯でした。私は物覚えが良い方ではないのでノートを作ってそれを見ながら処置を行ったり、手順を覚えられるように家に帰ってノートを見ながら振り返ったりしていました。

まだまだノートを手放すのは不安でいつもポケットに入っていますが、少しずつ業務の内容にも慣れ、ノートを見なくてもできる処置は増えてきました。

こなすことで精一杯だった処置やケアも、声掛けを行ったり表情を観察したりして、患者さんの安楽を考えられるようになったと思います。子ども達の笑顔を見れるととても嬉しくなります。

大変なことやしんどいこともありますが、同期と話してリフレッシュしたりプリセプターの先輩に相談したりしてこれからも頑張っていきたいと思っています。（3 階東）

コロナ禍であったため十分に同期の子とコミュニケーションを取れないまま配属が決まり、慣れない環境で出来ないことも多く悩むこともおありました。 しかしそのことを同期と話すと同じことに悩んでいることが分かり、少しずつ打ち解けることができ今ではかけがえのない存在です。

同期とはお互い励まし合い、失敗を共有することで成長することもできました。
初めはできないことばかり目立ってしまいますが少しずつできるようになったことに目を向けることができるようになったことが 1 番の成長だと思います。出来ることが増えると、自分がしたかった看護の実践ができるようになり、やり甲斐を感じられるようにもなりました。

たくさんの子どもたち、家族と関わることは大変なことも多いですが、学びが多く自分を成長させてくれます。また職場にはたくさんの優しい先輩看護師の方が多くいます。そのサポートの元、同期と互いに切磋琢磨し合いこれからも頑張っていきたいです。（4 階東）